

特集 〈伝える〉

声で伝えること

藤井 チズ子

生まれてすぐの赤ちゃんが母親に抱かれると泣き止んだり、お乳を探す行動を示すことは既によく知られている。

シンガーソングライターの平松愛理さんは大変な難産の末、帝王切開で出産した。その日のことを日本経済新聞平成十三年十月二十三日夕刊の「こどもと育つ」欄で次のように述べている。

「一九九六年六月二十日娘が元気な産声をあげた。抱っこしたかったが腕には点滴が刺さっている。だからその代わりに「ハッピーバースデー」を歌った。おなかは切断中、ウギアウギアと泣いていた娘が首をクーと伸ばして泣きやみ聞きしていた。歌い終わるとまた、首を縮め泣き始めた。通じた。ママの声がわかった。生まれたばかりの

娘に教わった、歌はうまいへたじゃない、伝えようとする気持ちなんだ。この日の思いはその後、自分の音楽にも大きな影響を与えた。」

平松さんにとつてなんと感動的な瞬間だったことか、抱っこしたいが赤ちゃんを抱けない、精いっぱい母親として赤ちゃんをあやしたい気持ちが歌で伝わっている。自分の気持ちをどう伝えたらよいか、この経験を通して音楽にも大きな影響があったという。恐らくその後も幸せな母娘関係が続いていると思う。

*

「伝える」というテーマを与えられて、最近一番強く感じているのは、十三年九月十一日アメリカで起きた同時多発テロでハイジャックされた飛行機の中から乗客が家族へかけた電話である。携帯電話の普及がこういう非常時に威力を発揮する。ある青年は母親に、ある女性は夫に、ある男性は

妻に電話で状況を伝えた。

「お母さんを愛しているよ」という息子さんの声が最期のことばとなったと、母親の悲嘆にくれた姿がテレビに映し出され、ひとり息子を突然失った母親の悲しみが画面から切々と伝わってきた。全世界に伝えられた貿易センタービル崩壊のニュースは、人々の脳裏に強い衝撃を与えた。これほど「伝える」ということばの重みを表している状況はないと思われる。

テレビは世界をひとつの地球村とし、現代のマス・メディアが伝える情報の影響ははかり知れない程大きいものがある。

私はかつて放送局でアナウンサーとディレクターの仕事をしており、マス・メディアの内側について情報を伝える役割をしていた。



ラジオやテレビでアナウンサーのニュースを聴くと、いかにも楽々とニュースを読んでいるように思える。しかし実際に原稿を読む立場になると、文章を読むことは難しい。

新人時代は、不特定多数の視聴者に話しかけることは焦点が定まらない感しで掴みどころがなかった。

私はスタジオでマイクの向こうに、家族や友人・知人の顔を思い浮べて彼らに対して放送するという気持ちで原稿を読むようにした。その内に視聴者からの反応や手紙が来るようになって視聴者との距離が縮まり、次第に楽に読めるようになった。

ベテランのアナウンサーは、視聴者のひとりひとりがいかにも、自分に話しかけているように感じるような読み方をする。ニュースはアナウンサーによってよく分かるものになったり、分かりにくいものになったりもする。

勿論文章の良し悪し、用語を分かりやすく説明することもたいせつな要素であるが、読み方の技術と読み手の意識によって伝わるものが変わってくる。

放送の場合ニュースは「ニュースをお伝えします」といっているように、本来伝えるものである。実際ニュースアナウンサーは、一字一句を読み上げるといふアナウンスメントでなく、ニュースの中で見出しになることばを探してキーワードにし、そのキーワードを意識して伝えるように原稿を読んでいく。最近のニュースは一分間に四百字を超えるかなり早いテンポで読んでいるが、キーワードを際立たせるために、キーワードの前に間を置くか、そこに音程を高くする抑揚をつける、テンポを少しゆっくりさせるなど、前後のことばとの関係を把握しながら読む。わざとらしく強調するのではなくキーワードを伝えていく。それによって視聴者はどんなニュースかを聴き取るこ

とが出来る。

さらに放送では、読み手の人柄、誠実さなどが自ずと現れるので、「声は人なり」といわれている。

マス・メディアで情報を伝えるには、それなりの技術と工夫が必要なのである。

私はアナウンサーの経験をもとに、カルチャーセンターの朗読教室の講師のほか、幼稚園で先生やお母さんたちに朗読を教えている。

子どもに本を読む、おはなしを聞かせるなどの場合もききに感動が伝わるような読み方や話し方が望ましい。しかし、学校では文章の朗読の方法を教わらないことが多く、ただ文字を読み上げればよいと思っている人が多い。

朗読の場合も段落を読解し、大事な語句、重点を中心に高低のイントネーション（抑揚）をつけ、間を取って読むことがたいせつである。

私は先生やお母さんたちが、子どもたちにおはなしの面白さ、楽しさ、作家の心、読み手の気持ちなどを伝えていただきたいと思う。

*

「伝える」という意味はさまざまである。言語、生活習慣、情報、伝統行事、芸術、遊び、家事など広く文化全般の範囲と、心や感覚の世界とがある。

また、親子・夫婦、友人、教師と生徒などの人間関係の間で多くのことを伝え合っている。だが真実心の絆で伝え合う関係が生きる力になるのではないか。私たちは次世代の子どもたちに、家庭や学校、社会で心豊かな文化を伝えていくこと、人とのかわりの中で「伝え合うこと」を大事な心の働きとして考えたいと思う。

（共立女子大学・元NHKチーフディレクター）